民謡とわらべうたで巡る

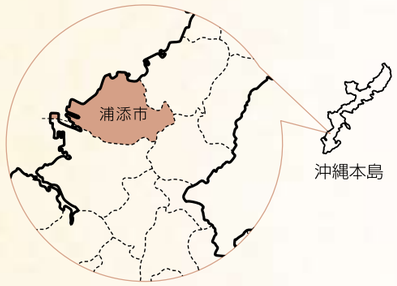
ふるさと唄紀行

監修●仲宗根幸市
イラスト●本原健至

浦添市牧港の「牧港姉小（まちなとうあんぐわ）」

県内各地に残る民謡やわらべうたは、懐かしい風景や当時の暮らしぶりを伝えてくれます。うちな～の唄が誘う地域の旅へ、まじゅん行かな（さぁ出かけましょう）！

田畑が広がる牧港の小川でエビすくいを楽しむ若妻たち



浦添がかつて農村だったことをしのばせる貴重な民謡

この唄が生まれた浦添市牧港は、戦前までは牧港川の周囲に田園風景が広がる農村でした。美しい水が流れるせせらぎにはタナガー（手長エビ）や川魚がすみ、健康美にあふれた初々しい姉小（若妻）が川あそびに興じながら、愛しい夫のためにエビをすくう当時の庶民の生活が生き生きと唄われています。後半の「ちんてぇーとーせーむってぇーとーせー」の部分の意味はよくわかっていませんが、夫にエビを食べさせることで精をつけさせようとしたのではないでしょうか。

この唄は、新婚の二人を冷やかしたり、のろけ半分で唄われたりしたようで、ほほえましい夫婦の情愛が伝わってくることから、新婚夫婦を題材にした戦前のウチナー芝居の中で歌詞を替えて唄われ、替え唄の方が記憶に残っている人もいるようです。また、軽やかな曲調が好まれ、男たちが地ならしの作業をする時などに唄われたともいわれています。

近年ではほとんど唄われなくなってしまいましたが、現在の牧港からはうかがい知ることのできない、のどかな風景が目に浮かんでくる民謡です。地域の変遷がわかる貴重な資料となっています。

「牧港姉小（まちなとうあんぐわ）」
牧港（まちなとう）あんぐぁたぁが
橋（しぢゃう）ぬ下降りとて
白（しる）せぇすくゆさ
うりすくてぬうすが
ちゅい夫小（うぃぐぁ）に呉（くぃ）ゆん
ちゅい夫小（うぃぐぁ）に呉（くぃ）たくと
ちんてぇとぅせ
むってぇとぅせ
ハーリガヨウスー
サースイヤサアユイー（囃子）

（標準語訳）
牧港の娘さんたちが
橋の下に下りて
白いエビをすくっている
娘さんよ　それをすくって何にするのだ
自分の夫にやるのさ
たった一人の夫にやったら
「ちんてぇーとーせー
むってぇーとーせー」
（意味不詳。まるまる太ったイメージ）
出典『琉球列島・島うた紀行』仲宗根幸市編著

歴史と文化の香り漂う街

浦添市

- 面積 ------ 19.09㎢
- 人口 ------ 109,417人（平成19年12月末日現在）
- 市花 ------ オオバナアリアケカズラ
- 市木 ------ ホルトノキ
- 市花木 ------ オオゴチョウ

市 中央部に緑豊かな森林を抱える「てだこの都市（まち）」

牧港火力発電所周辺

浦添市は沖縄本島の南側、東シナ海に面する西海岸沿いにあります。県内第4の規模を持つ市として知られ、北を頂点にして南西と南東に扇形に広がっています。初期の琉球の王権は舜天王統、英祖王統、察度王統と続き、いずれも浦添を本拠地としていました。英祖王が「てぃだ（太陽）の子」と呼ばれたことから、方言で太陽の子を意味する「てだこの都市（まち）」とも呼ばれています。

商 業と工業を柱に県経済を支える市

県内大手企業の本社が数多くあり、第三次産業が高い比率を占めています。国道58号線沿いを始め、市内には大型ショッピングセンターや飲食店などが点在。西海岸の埋め立て地には「沖縄県卸商業団地」があり、一大物流拠点となっています。この他、食料品製造業や金属製品製造業などの工業もあり、海ぶどうやクルマエビなどの水産業も順調な伸びを見せています。

国道58号沿いの街並み

琉 球王国誕生の地としての歴史と文化を誇る街

浦添ようどれ（琉球国中山王の墓）

英祖王ゆかりの浦添城跡や浦添ようどれなどの旧跡、組踊の創始者とされる玉城朝薫の墓などがあります。また、沖縄伝統芸能の保存振興を図る国立劇場おきなわや県内で最初の公立美術館「浦添市美術館」など数々の公共施設が揃う県内有数の文化都市としての一面も。また、ハンドボール王国都市宣言を行うなど、スポーツ選手の育成も盛んです。